

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Wine, liquor, beer and risk of breast cancer in a large population. 大規模集団におけるワイン、蒸留酒、ビールと乳癌のリスクについての検討	
執筆者	
Li Y, Baer D, Friedman GD, Udaltsova N, Shim V, Klatsky AL	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Cancer 2009; 45: 843-850.	
キーワード	
乳癌、飲酒、ワイン、ビール、危険因子、疫学	
要 旨	
<p>目的： 飲酒と乳癌のリスクの関係は人口ベースの研究で示されている。乳癌のリスクになる飲酒量の閾値、アルコール飲料の種別でリスクが異なるか、また乳癌の他の危険因子と飲酒との交互作用についてはまだはっきりした見解は定まっていないため、今回検討の対象とした。</p> <p>方法： サンフランシスコの海岸地区における総合的ヘルスケアプログラム加入者である乳癌の既往のない 70033 人の女性を対象としたコホート研究を行った。検診における問診ベースの調査をベースラインとし、平均 16 年間乳癌の発症について追跡を行った。コックス比例ハザードモデルによりこれまでにまったく飲酒したことがない人に対する 1 日あたりの各飲酒量別に乳癌発症のハザード比を算出した。年齢、人種、教育歴、BMI、婚姻状況、喫煙歴、子供がいないもしくは高齢出産であるかどうか、乳房に関する手術歴の有無、母もしくは姉妹の乳癌家族歴の有無を用いて調整を行った。</p> <p>結果： 2829 人の乳癌発症が確認された。これまでにまったく飲酒したことがない人に対して、1 日あたりの各飲酒量別の乳癌発症のハザード比 (95%信頼区間) は、1drink 未満で 1.08(0.95-1.22)、1-2drink で 1.21(1.05-1.40、$p=0.01$)、3drink 以上で 1.38(1.13-1.68)であった。飲酒の乳癌発症リスクは、アルコールの種類とは関係なく、エストロゲン抗体陽性腫瘍で高かった。</p> <p>結論： 1 日 1-2drink の範囲内であれば、ホルモン関連のメカニズムが飲酒と乳癌の関係を左右している。</p>	